

金沢大学複合材料応用研究センター報告の発刊を祝して

金沢大学々長 豊田文一

私ども多年の要望でありました複合材料応用研究センターが、昨年、学内共同教育研究施設として設置され、早くも二年目を迎えんとしています。

複合材料応用研究センターの設置が実現しましたのは、関係機関の絶大な御援助と、本学関係者の熱意の結集の賜であり、ここに改めて深甚な謝意を表するものであります。

複合材料の歴史、即ち、材料を複合した形で利用することは、古くから行われています。例えば、繊維強化プラスチック、コンクリート、ベニア合板、バイメタル等我々の日常生活の中にも広く活用されていますが、最近の科学技術の著しい発展は、どのような環境にも対応できる優れた性能をもつ新しい複合材料を要求するようになってきています。また、その用途も医療技術材料、工業材料等その範囲は広く多岐にわたっており、新しい複合材料の開発の研究は、社会における大きな課題となってきました。

しかし、ますます複雑化、高度化する現代の科学技術に対応することができる新しい複合材料を開発するには、単に一つの専門分野での研究は、不可能と言わざるを得ず、工学、理学、医学等広く各分野を包括した総合研究体制の確立を図り、共同研究による学際的研究を一層推進する必要があります。

社会は、私達の優れた研究成果を期待しています。これを社会に還元することによって社会との関係を深め、地域の発展に貢献することは、我々の研究活動の一つの大きな役割であると思います。

本学の複合材料に関する研究は、優秀な研究者に支えられ、これまでもすばらしい業績をあげておりますが、今後さらにその豊富な研究歴を背景として複合材料応用研究センターがますます発展し、一日も早く全研究部門が完成し、名実ともに我が国における複合材料研究のリーダーとなることを期待しています。